

①効果が現れている案件の代表例

(注)本リストは、平成29年8月に公表したリストをベースに平成31年2月から5月にかけて外務省が改めて把握できる範囲で調査した情報に基づくものです。今後新たな事実が判明した場合には記載の内容に変更があります。

一般文化無償資金協力

国名	案件名	E/N締結日	完了日	案件概要	供与限度額(百万円)	効果が現れている状況	成功要因・教訓
エジプト	カイロ大学日本語学習機材整備計画	2006年12月25日	2008年9月18日	エジプト及び中東諸国における日本語教育の拠点としての役割を担うカイロ大学文学部日本語学科において、LL機材及び日本語学習用コンピューターを導入し、また日本関連のシンポジウムや研究会に使用するプロジェクト等視聴覚機材を整備し、同学科の日本語及び日本研究の学習環境を整備するもの。	46.3	カイロ大学日本語学科に整備された日本語学習用機材は、本件完了以降、一日当たり平均6時間、週6日(長期休業期間を除く)、日本語学科に在籍する年間延べ約130名の学生によって使用され、同学科の教育レベル及び学生の日本語能力の向上に大きく貢献してきた。供与当時約20名であった一学年の定員は、その後の日本語学科への入学希望者増加を受け、現在30～35名を受け入れている。同学科は1974年に設立され、その高い教育水準によって、中東諸国の大学における日本語学科創設に協力、またエジプト国内においても日本語教師を養成し得る唯一の日本語学科として、当国を含む中東地域における日本語教育拡充に貢献してきた。近年は同学科を母体として学内に日本研究センター、日本語通訳・翻訳専攻が立ち上がるなどの新たな進展も見られ、本件機材はこうした日本語教育の基幹機材として有効に活用されている。また日本語、日本の思想、文化、文学等に係る研究会や日本の大学との共催シンポジウムなども活発に開催され、日本語教育・日本研究の拠点として、日本との学術交流の活性化等にも重要な役割を担っている。	LL機材という言語学習における基本的かつ重要な機材であることからニーズも高く、高い使用頻度で有効活用されてきている。歴代学科長を始め日本語学科卒の講師陣はその多くが日本留学経験者であり、その指導の下機材が丁寧に扱われている様子が見て取れ、また文学部に設置されている9言語学科でLL機材を有するのは日本語学科のみであることから、大学側としても、そのための専用教室の割り当てや大学職員による日常的なメンテナンス等の適切な維持管理に努めていることも成功要因であると言える。
キューバ	ハバナ市歴史事務所プラネタリウム機材整備計画	2006年8月14日	2009年12月11日	ハバナ市歴史事務所が所有する建物に設置するプラネタリウム機材を整備するもの。	50.0	同プラネタリウムは2010年1月から一般に開放され、既に来場者は約31.7万人(2019年5月時点)に達している。児童、学生、高齢者等対象に応じた様々なプログラムを策定し、多くの国民の天文学に関する知識・関心向上のために有効に活用されている。ユネスコからも支援を受け、現在では旅行ガイドにも載るほどの観光スポットになっている。週4日(水曜日から日曜日まで:日曜日は1日4回、日曜日は1日2回)公演が行われており、週に650人程度の観客が訪れる。プラネタリウムのナレーションには本プロジェクトが日本の援助によって行われていることがアピールされている。	ハリケーン到来等による資料調達遅延等から機材設置場所の建設・改修工事が遅れた経緯があったものの、実施機関の意欲及び能力が高かったことから、機材設置後は様々なプログラムを策定し集客数を増やしている。フォローアップ事業で日本の技術者から指導を受けた技術者が、引き続き維持管理に携わっており、機材が大切に使用されていることも成功要因である。
コスタリカ	国立通信教育大学印刷機材整備計画	2007年6月22日	2008年11月21日	通信教育を通じて働きながら学ぶ人々や経済的に恵まれない人々に高等教育の機会を提供している国立通信教育大学は、「学生の自己学習を支えるのはテキスト」という課題を掲げ教材の編集から配布を一貫して行ってきたが、印刷機材の老朽化が進み、印刷需要に追いつかず、一部市販の書籍を利用せざるを得ない状況であった。このような状況に対応するため、印刷機材を整備するもの。	43.5	本件で整備した印刷機材は1日16時間、週5日、夏休みを除く11か月間稼働し、平均32,000枚/日を印刷している。その結果、以前に使用していた印刷機2台と比べ印刷効率が40%以上上昇したほか、作業員にとって操作が容易、維持管理費が安価で不具合も少なく、オペレーションに必要な人数を3人から2人に減らすことが可能となり、人件費を40%削減できた。またポスター・点字等一部の印刷物を除いて、全て自前の印刷となり外注費の大幅な削減が達成できた。より分かりやすい教材の作成と提供が可能となり、教育の質の向上に繋がった。本件にて供与された日本製印刷機材の品質が評価され、同機材メーカーのコスタリカにおける販売促進にも繋がった。日本週間のパンフレット、JICA事業に関わる印刷を行っているほか、同大学は日本語弁論大会の会場として利用されるなど、日本文化発信機会に協力が得られている。	当時の政権による重要政策「教育の機会拡大と質の向上」を受け、同大学の学生数が増加していた時期である一方、印刷機材は老朽化により限界にきており、それを同大学印刷部創設30周年の機会に更新するという時宜を得た本件協力の実施、品質の高い機材の供与等が、成功要因である。また、維持管理に際しても、同大学職員による定期的なメンテナンスが可能となり、修理が必要となった場合でも、本件実施をきっかけに日本メーカーがコスタリカへ進出し現地代理店を設置したことで、対応が容易となった。
コロンビア	トリマ県音楽院楽器整備計画	2007年2月9日	2008年3月29日	首都から空路1時間の距離にあるトリマ県の本音楽院は、貧困家庭の子女にも等しく音楽教育を施すことを目的に設立された。その後、規模が拡大され幼稚園から大学までの専門教育、近郊他校普通科生徒への授業、近郊での音楽普及活動などを行っていたが、楽器不足、老朽化により、その活動に支障を来していたため、楽器を整備するもの。	70.0	以下の3つのプロジェクト目標が達成された。①音楽教育の質の向上について、楽器供与後は良い音色の楽器を用いた指導が可能となり、教員は適切な指導が行え、生徒がコンクールで入賞する機会が増加した。②市民向け演奏会の回数は年60回から100回に増加した。③音楽に関心ある子供・若者の教育機会の増大については、楽器不足が解消され同学院に学びに来る子供の数が増加し、大学では口演奏家養成課程を新たに設置することが可能となった。以上に加え、同音楽院に通う生徒のほとんどが同国の低い社会階層に属する点や、同学院が実施している音楽出張教育の対象者には国内避難民子弟、元少年兵などの紛争被害者が含まれている点から、音楽教育を通じた格差是正や紛争影響地域における社会的リスキ層への情操教育にも貢献した。更に、外国人ピアニストを審査員として招聘して国内ピアノコンクールや国際音楽家コンサートなどを積極的に開催しており、同国における音楽院レベルのステータスも高くなった。	自立発展性が高い実施機関への供与が成功要因である。また、首都圏と比べて困難度が高い地方の機関に対する器材供与であり代替品の入手が容易でないこと、また、実施機関による生徒及び保護者への楽器の価値などに関する教育の効果もあり非常に大切に扱われている。また、本件実施に際し、実施機関は楽器保管倉庫に空調設備を導入し器材の品質維持を図っている他、文化省からの楽器専門家派遣の機会に実施機関職員への技術移転を受け、定期的なメンテナンスを実施できている点も、供与器材が長く有効活用されている要因である。
バングラデシュ	国立博物館視聴覚機材整備計画	2008年8月21日	2010年6月23日	バングラデシュ国立博物館(1983年建設)は、1912年に設立されたダッカ博物館を前身とする現地で最も展示内容が充実した博物館であり、伝統文化の継承とともに、新たな文化の創造のため、同国の過去と現在を繋ぐ重要な役割を担っている。設備の老朽化で、質の高い展示や文化イベントの開催が困難になりつつあったため、同博物館の講堂等の視聴覚機材を整備するもの。	62.3	本国国立博物館の大ホールでは、日本映画祭等の各種文化イベントが開催され、小ホールでは、8月6日の広島デー・メモリアルイベントや各種シンポジウム・公演、エキシビジョン・ホールでは、各種展覧会等が開催されている。2017年の来館者数は、約76万9千人。開催イベント数は、大ホール111回、小ホール228回、エキシビジョン・ホール21回、オーディオ・ビジュアル・プログラムは6回である。2018年の来館者数は、約67万1千人。開催イベント数は、大ホール110回、小ホール234回、エキシビジョン・ホール20回、オーディオ・ビジュアル・プログラムは4回である。	バングラデシュでは、国民の多くが伝統的に、詩歌や音楽、絵画等の芸術や文化に強い関心を持って広く親しんでおり、年間を通じ各地で数多くのイベントが開催されている点、特に国立博物館は、首都ダッカ市の中心部に位置し訪問者も多く、文化イベントを開催するには最もふさわしい場所として、頻繁に利用されている点等が成功要因である。
モロッコ	モロッコ王国国立図書館音響・照明・視聴覚機材整備計画	2005年11月29日	2008年6月23日	新たに開館するモロッコ王国国立図書館に音響、照明、視聴覚機材を整備するもの。	45.1	モロッコ王国国立(国立)図書館は、2008年10月の開館以降ほぼ通年亘って、絵画など芸術品の展示や演劇やコンサートなどの公演を実施しており、文化啓発活動の中心的な施設として国内で認知されている。本件によって機材を設置した視聴覚ホールは映画上映やコンサートなど文化・芸術行事のほか、大規模会議など幅広い用途で使用されており、図書館の自動努力によりその裨益効果は文化・芸術活動に関心を有する市民をはじめ、施設利用者にも広く行き届いているといえる(2015年9月から2016年9月までの1年間で同ホールでは計117の講演会、公演他イベントを開催し、計約15,000人が利用した)。また、在外公館との関係では、2008年10月の図書館開館記念及び本件の機材引渡を兼ねたこけらおとしとして開催した邦楽コンサート公演を皮切りに、在外公館が主催する生け花デモンストラーションや邦楽コンサートなど日本文化イベント実施時に開催場所として施設の使用を許可されており、日本文化発信について理解と協力が得られている。本件を契機に同図書館と在外公館の間に友好的な協力関係が構築されたといえる。	開館遅延に伴い供与機材設置が遅れたものの、図書館開館に合わせた供与機材の設置、文化イベントをほぼ通年で開催している図書館の自動努力、実施能力及び機材維持管理能力の高さ、市内中心地に位置し、トラムの駅が目の前に設置されている図書館のアクセスの利便性が本件の成功要因である。
モンゴル	モンゴル国立人形劇場音響及び照明機材整備計画	2009年1月22日	2010年6月7日	同劇場は青少年人口が多い同国において、若者が文化を身近に感じる機会を与えることのできる数少ない機関であり、同国が市場経済化を進めた1990年代の極度の厳しい経済状況下においても活動を継続してきた。同国の青少年に対する文化活動の重要な拠点でもある。同劇場の全面改装に併せ、老朽化した音響及び照明機材を整備するもの。	44.9	10年近く前に供与された音響機材及び照明機材の維持管理が適切になされており、定期的な公演が行われている。以前は他国製の古い機材が使われていたが、本件計画による機材整備後は、劇の質が上がり、新しい劇作品が40以上製作され(供与前は、60年間で約180本の新作)、劇の回数及び来場者数も大幅に増加している。	モンゴルでは、多くの国民が伝統的に、音楽、絵画等の文化・芸術に強い関心を持って広く親しんでおり、特に国立人形劇場は、首都ウランバートル市の中心部に位置し、多くの子ども達が訪れやすい場所であることや、劇場関係者の真摯な維持管理が成功要因の一つである。
ルーマニア	ルーマニア国立フィルム・アーカイブ資料修復保存機材整備計画	2008年10月21日	2010年6月25日	ルーマニア国立フィルム・アーカイブは、国際的評価にも堪える作品を多く持ちながら、そのコレクションの保存状態が悪化していた。このため、同機関が保有する多数のコレクションの保存状態を改善し、同コレクションの次世代への継承及び同機関の文化活動の活性化を促すため、最新の修復保存機材を整備するもの。	51.2	ルーマニア国立フィルム・アーカイブにおけるフィルムの修復・保存作業に際し、本件によって供与された機材のほとんどが必要不可欠となっており、同アーカイブ所有フィルムの保存状態の向上及び次世代への継承という観点から、プロジェクト目標が十分に達成されている。また、本件完了以降、本計画を通じて国立フィルム・アーカイブの管理下にある映画館であるチネマテカ・ロムーナとも良好な関係を築いており、同映画館でほぼ毎年、在ルーマニア日本大使館による日本映画祭を開催している。	支援対象機関として、幅広い分野に目を向け、当時日本の高い技術が活きる分野での需要を発掘することができたこと、また、ルーマニア唯一の映画修復・保存作業を行う公的機関である国立フィルム・アーカイブに機材を提供したことが、高い効果につながった。

②かつて改善すべき点があったが、現在は効果が現れている・外部からの指摘事項が改善している案件

一般文化無償資金協力

国名	案件名	E/N締結日	完了日	案件概要	供与限度額 (百万円)	問題・指摘の概要	原因	これまでの対応及び現状等	今後の対応・教訓等
ウズベキスタン	国立サマルカンド外国語大学に対するLL機材整備計画	2004年1月23日	2005年5月10日	国立サマルカンド外国語大学に、LL機材、視聴覚機材、日本語教材等の日本語教育用機材を整備するもの。	24.7	①ビデオ撮影機材及びLL機材(カセットテープによる再生・録音)が、2011年12月の時点でほとんど活用されていない ②2011年12月の時点で供与済教科書の半数程度の存在を確認したにとどまった。	①ビデオ撮影機材が大学側の厳格な管理下で保管され、流動性の高い職場であることもあり、その後の日本語学科教師側が機材の存在を知らないまま時間が経過、LLシステムはカセットテープによる再生・録音のみに対応するものであり、CDやDVDなどの新しいデジタルメディアに対応できず②図書室の管理体制の不備があった。	①大学当局に在外公館から働きかけを行った結果、大学側が日本語講座側からの供与機材へのアクセスを改善し、日本語教材の作成・開発やLLシステム全体として一定の利用後、旧式メディアのため、2019年5月現在使用頻度は低下している。 ②亡失した図書については、貸出しカードを用いた管理体制の厳格化を行ったこと等で一定の回収・再整理がなされた。現在、大使館からの累次の要請に応じ、大学側が自効努力にて日本から同一教材を調達し供与当時の現状を回復すべく作業している。2019年5月現在の保管状況は、教材種別ベースで全198教材中、亡失32教材へと改善されてきている。	教材数回復のための自効努力の動向を引き続きフォローするとともに、機材を含めた管理のあり方等及び活用方法について必要な助言を行なう。 類似案件の形成に際しては、技術・メディアの急速な発展を考慮し、供与対象機材の技術要件等につき慎重に判断・確認する。
ベネズエラ	国立ベネズエラ中央大学大ホール音響機材整備計画	2005年8月30日	2006年11月21日	国立ベネズエラ中央大学講堂に音響機材を整備するもの。	42	供与機材のうち、使用時にノイズが発生するとして、大学側がノイズ発生の原因と考えている分配ボックス(音の信号を分岐するもの)、分配ボックスと接続して使用するために不具合の影響を受けることを懸念する機材及び使用中に故障した機材の使用を現在停止している。	大学側の機材設置環境及び機材運用方法に不備があった。	大学側がノイズの原因と考えている分配ボックスの修理可否につき機材メーカーに確認したところ、ノイズの原因は分配ボックス故障ではなく、本来固定設置で運用することになっている分配ボックスを含む機材を固定しておらず、また、ケーブル類を固定せず雑事ごとに撤設するという不安定な設置環境によるものであるとの技術的見解が提示された。2011年12月、右見解を在外公館より大学側に伝達し、機材設置環境の改善と機材の有効活用を申し入れた。その後、在外公館と大学との間で協議を継続し、大学は、学内関係各部と調整を行いながら、作業計画を策定していた。現在、在外公館からの指摘(設置環境の改善)を受け、大学側の自効努力により、供与機材の設置位置を改善し、現在、問題なく音響機材を使用できるようになった。。借り上げ費用を支払う必要がないため、財政難であっても大学で交響楽団のコンサート、講演会、大学行事(卒業式等)を開催でき、裨益効果が発現していることから、日本のプレゼンスの向上にも効果があったと認められる。2019年5月23日、在外公館担当官による現地視察を行い、供与機材が確実に有効活用されている状態を確認した。	在外公館として、本件講堂を文化行事で利用する等日本・ベネズエラの文化交流の場として有効活用し、また、定期的に現地を訪れ、問題が発生していないかどうか等、大学の活動をフォローしていく。